

2024年度前期「企画に対する学生評価」

臨地看護学実習企画に対する学生評価

実 習 計 画	実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実 習 内 容	実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 実習中に課された記録・提出物の量は適切であった。 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実 習 環 境	教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総 合 評 価	実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 この実習は全体として満足できるものであった。

- | | |
|-------------|-----------|
| ⑤ 強くそう思う | (非常に良い) |
| ④ やや思う | (良い) |
| ③ どちらとも言えない | (普通) |
| ② あまりそう思わない | (あまり良くない) |
| ① 全くそう思わない | (良くない) |

科目名：基礎看護学実習Ⅰ（療養生活の理解）

（看護学科第1学年前期／必修）

履修者数：60 配付数：58 回収数：57 回収率：98.3%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.8	4.2	4.6	4.0	4.7	4.7	4.4	4.6	4.7	4.8	4.7	4.6

＊評価に対するコメント

基礎看護学実習Ⅰ（療養生活の理解）担当教員

今年度より Covid19 流行前の実習形態に近づく全日病棟実習となりました。ただ実習期間中、院内の感染拡大に伴い学内実習に変更になった学生や見学実習のみと実習形態の変更がありましたが、実習の満足度は4.6、看護職を目指す意欲も4.7の評価であり、実習企画としては概ね良好と考えます。今後も感染対策を取りながらの実習形態となると思うので、いただいた意見を参考に運営方法を検討していきたいと思います。

科目名：高齢者看護学実習

(看護学科第4学年前期／必修)

履修者数：59 配付数：58 回収数：36 回収率：62.1%

＊評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.0	4.2	4.5	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	4.4	4.0	4.1

＊評価に対するコメント

高齢者看護学実習担当教員

評価は4.0以上であったが、昨年と比べ全ての項目でポイントが下がった。コメントは、通所施設の改善点や教員の指導に関する戸惑い、manabaの運用方法、交通費助成の要望であった。病棟実習時間を実習期間の1/2まで回復させたことは評価できる。しかし、COVID-19の影響を受け、外部施設での実習で運営が難しい場面もあり、学生への指導が不十分だったことも考えられる。来年度はカリキュラムが変更になる。実習目的に照らすと、外部施設での実習は成果が十分に期待されることから、新たな運用方法で実習体制の充実に努めたい。

科目名：小児看護学実習

(看護学科第4学年前期／必修)

履修者数：59 配付数：59 回収数：10 回収率：16.9%

＊評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.9	3.6	3.9	4.0	3.7	3.6	4.1	3.8	3.8	4.2	3.9	3.9

＊評価に対するコメント

小児看護学実習担当教員

学生の実習に対する評価は3.6-4.2でありました。しかし、回収率が16.9%と極端に低く、履修者の意向を反映している数値とはいえないと考えます。評価表は実習クルールごとに配付しましたが、来年度は配付方法を検討して回収数を挙げ、学生からの評価を理解できるようにしたいと考えております。

科目名：在宅看護学実習

(看護学科第4学年前期／必修)

履修者数：59 配付数：59 回収数：27 回収率：45.8%

＊評価結果 (平均)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.2	4.2	4.3	4.0	4.3	4.3	4.3	4.4	4.6	4.6	4.1	4.3

＊評価に対するコメント

在宅看護学実習担当教員

在宅看護学実習では利用者の多様な価値観や暮らしを見ることが出来たと思います。学生間で同行訪問の件数に差があったため、次年度は同等の件数になるよう調整したいと思います。コメントを参考により良い実習にしたいと思います。